

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
飯野 智子			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
浅川 達人		明治学院大学 社会学部 社会学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習	MJGa-150804-0	10人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

現代のジェンダー問題の中から問題意識に沿って主題を決定し、必要な文献を読み、調査内容、対象、方法を決定した。全てインタビュー形式で、質問表を作成し、インタビューは大学内及び先方のオフィスなどで学生が行った。文字起こし、発表、議論をし、問題の共有を図るとともに、報告書の執筆内容の調整を行った。それぞれ関心のあるテーマに沿った対象者にインタビューを行う事ができたので、学生は積極的に調査を行っていた。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：

ワークライフ・バランス及び恋愛・結婚とジェンダー 新たなパートナーシップの可能性

2. 調査の内容／概要：

ワークライフ・バランス...男性的な職業に就く女性、女性的な職業に就く男性、専業主夫、育児をする男性から、男女の役割分業意識と環境の変化を見る。恋愛・結婚...婚活支援サービス、デートサービス、LGBT当事者から、恋愛・結婚における様々な関係性の可能性を見る。

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

日本男性看護師会（最大の男性看護師団体）東京男性保育者連絡会（数少ない男性保育者の会）前田建設工業株式会社（女性の登用に取り組む）土木技術者女性の会（女性技術者）ファザーリングジャパン（育児する男性）専業主夫/パートナーエージェント、日本婚活支援協会（婚活サービス）WarmRelation（デートサービス）豊島区議（LGBT当事者）

4. 主な調査項目：

ワークライフ・バランス...男女の職種の広がりを受け入れ環境について、男性の育児休業取得についての企業の取り組み、専業主夫の社会的評価 恋愛・結婚...若者の恋愛、結婚についての意識の変化、デートサービスに求めるもの、多様な性という観点に立ったパートナーとの関係のあり方。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

全てインタビューによる調査。録音を行った。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

2015年6、7、8月。東京都内（対象者の社屋及び大学の教室）調査員は3～10人。

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収率及び回収率を必ず記入）：

10人で行うにはインタビューの数としては十分であった。積極的に活動している会や、専業主夫、LGBT当事者といった少数者を代表する対象者にインタビューができたのは良かった。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：

それぞれの担当班がインタビュー内容を文字起こしし、さらに文献で学習した事と合わせ発表を行った。それをもとに全体で討論し、分析した

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

ワークライフ・バランスの調査からは、男女とも職種は広がり、受け入れ環境も整いつつある事、男性の家事育児に対しては理解のなかなが進まない事が分かった。恋愛・結婚からは、結婚難を切実に感じる層がいる一方、従来の結婚を超えた関係性を受容するようになっている事が分かった。

10. 報告書刊行の予定と概要：

『社会調査実習報告書 Vol.32』2016年3月発行。